

6年 わたしの地図活用

世界との結びつき 地図帳の長所をどう生かすか

東大阪市立石切東小学校 北川 将来

1 世界との結びつき…どこから攻める？

6年生の社会科の最終単元は、国際理解学習である。世界と日本のつながりを外国調べを通して学習し、世界平和や国際貢献、環境と共生について考える流れが一般的である。

導入時に、日本とかかわりの深い国はどこだろう？と投げかけたところで、視点が定まっていなくて子どもたちの想像力は広がらない。そこで、「人」「食べ物」「食べ物以外のモノ」に分類してつながりを考え、どの国と関わりが深いのかをピックアップできるようにした。

すると、日本とのつながりがどの程度あるのか、本当につながりがあるのかを確かめる手段が必要になってくる。その方法の一つとして、私は地図帳を使っている。

5年生の復習も兼ねて、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下、地図帳）p.65「世界の国別統計⑧世界のおもな国々と日本との結びつき」を利用し、貿易額に注目させる。

国名	面積	人口	貿易額	貿易額	貿易額	貿易額	貿易額	貿易額	貿易額
アメリカ合衆国	9,826,600	312,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
中国	9,596,960	1,370,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
インド	3,287,260	1,100,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
ブラジル	8,511,960	200,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
ロシア	17,098,200	140,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
日本	377,900	125,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

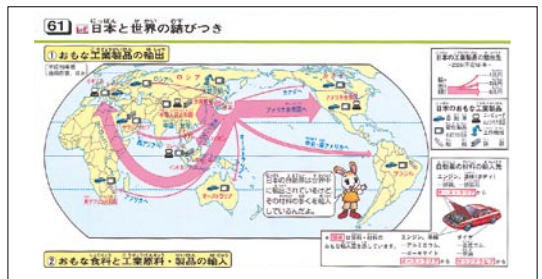
『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.65

統計から、日本と関係が深いのはどの国で、

どのようにつながっているのか「モノ」レベルで見えてくる。

次に、その国の位置はどこかをさくいんで調べ、さらに巻末の世界全図で確かめる。ここで大事な点は、地図帳を用いて調べることを通して、「日本」と「日本と関わりの深い国（アメリカ合衆国や中華人民共和国、大韓民国など）」の位置関係を理解し、地図上で全体像を捉えることにあると思う。

最後に、地図帳p.61の「①おもな工業製品の輸出」および「②おもな食料と工業原料・製品の輸入」の図でまとめとする。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.61

統計と地図が結びついたとき、世界がより鮮明に見えてくるのではないだろうか。

2 国調べの実際…地図帳をどう使う？

日本とつながりの深い国について学習する場合、特定の国について調べてまとめる活動を取り入れるのが一般的ではないだろうか。調べるツールとしては、インターネットを通じて得られる関連ホームページや社会科資料集、図書資料や海外旅行用書籍などが考えられる。

では、地図帳はどのように活用していくことができるだろうか。

他の資料の地図と比べて、地図帳の決定的な違い（良さ）は、その正確さにある。

ブラジルの国土について例をあげる。この国が広大なアマゾンの熱帯林を有することは、

他の資料からでも事実として調べることができる。しかし、作業を通してその広さを実感することができるのは、地図帳活用時のみである。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.54

地図帳p.54で、熱帯林のおおよその範囲を縦3cm横5cmとする。6年生の1月以降なら、算数で縮図は学習しているので、実際の長さを求めることができる。この地図は、4500万分の1の縮尺であり、1cmは4500万cm=450kmなので、縦3cmは1350km、横5cmは2250kmとなり、実際には300万km²以上の面積があることが確かめられる。

また、ブラジルの国土全体が約850万km²なので、国土の半分近くが熱帯林であることも導くことができる。

3 卒業を意識した発展的学習へ

卒業を間近に控えた6年生。下級生のために役立つことができる場面があれば、達成感を感じ、最高学年としての自覚も高まるはずである。

本校の1年生では、春の遠足で天王寺動物園（大阪市天王寺区）に行く。その頃児童たちは卒業してしまっ

ているので新1年生と関わることができないが、動物の分布がわかる世界地図を学級にプレゼントすることはできるだろう。

地図帳p.47～p.54の大陸別地図には、動物のイラストが表示されている。天王寺動物園には、地図上でも掲載されているアジアゾウ、ライオン、コアラ、ミシシッピワニなど多数の動物がいる（2011年10月現在）。ま



『楽しく学ぶ小学生の地図帳初訂版』 p.51

世界のどの付近にどのような動物が生息しているかを調べ、白地図の模造紙に数を絞ってまとめていく活動を行う。6年生にとっては、地図帳から必要な情報を選んで活用し、対象に応じたまとめ方（表現）をする学習として重要である。また、身近なところで日本と世界がつながっていることも理解できるだろう。



1年生にとっては、動物園の動物たちは、もともと遠い国から来ている（*現在の園にいる動物のほとんどは日本生まれの動物）ことがつかめると考えられる。

このように、地図を通して異学年交流を図ることも可能である。社会科と総合的な学習の時間とをリンクさせ、子どもたちが目標を持って活動に取り組む機会を与えてもいいのではないと思う。